

(Kevin Pan)
所感及び今後の抱負

2月20日から2月21日まで、JPNIC APNG Camp 支援プログラムの支援を頂き、台北で開催される Asia Pacific Regional Internet Conference on Operational Technologies (APRICOT)のワークショップである、Asia Pacific Next Generation Camp (APNG Camp)に参加しました。

キャンプ一日目の中心議題は、Cyber Sex、Online Game と Online Community でした。台湾の国立中央大学英文学科教授何春蕓が Keynote Speech で Cyber Sex について、女性主義者の観点から見る Cyber Space での新しい男女の関係を発表しまして、実に興味深いでした。Online Game に関して、韓国延世大学心理学科の Leo Sang-Min Whang 教授が Keynote Speech で Online Game におけるプレイヤーの心理を分析し、なぜ online game が流行できる原因を説明しました。Online Community では、台湾の元智大学情報社会学研究科の曾淑芬教授が Cyber Space からリアル世界に逆発信する可能性について探求しました。

当キャンプの一日目午後のスペシャル・イベントで私が情報教育について発表をしました。現在日本の大学における、入門レベルの情報教育を行うのに直面した挑戦を、早稲田大学を例として問題提起しました。先進国である日本、情報教育が進んでいると思われていたが、近隣の台湾と韓国に比べ、高校以下の情報教育は実際に台湾と韓国により遅れています。発表の内容に、大学レベルで情報教育を行う難しさと高校と大学の情報教育のつながりがうまくできていない事実を発表で報告しました。この発表の内容をきっかけに、次韓国で開催される APNG Camp で、各国の大学におけるネットワーク・セキュリティ対策とその教育というテーマを決めました。

キャンプ二日目は Working Group が中心になっています。私をもっとも関心を持っているのは午後の情報格差にあります。Working Group での議論の方向が国際的な情報格差になってしまい、私はこの方向に賛同できませんでした。なぜかといいますと、国際的な情報格差はほぼ各国の経済格差であります。一国内の情報格差は社会的な格差につながりますが、国際的な情報格差を論及すると、まずは各国の経済力を改善するしかありませんという結論になります。

私の専門は会計です。会計では、基準を定める学者と実務家の会計士がそれぞれいます。理想な構図は、学者が優れる基準を考案して、会計士がその基準を実務で実践します。し

かしながら、現実はその甘いではありません。学者が理想な基準を考え出したら、よく現場の会計士が悲鳴をあげます。完璧な基準で会社の財務がより透明になるところか、会社の経営が成り立たないのが問題です。理想的な会計基準と実行可能な会計基準の間に必ず差があります。そして、両方はその間で妥協案を新たに考案しなければなりません。

私は技術を利用する側にいます。そして、技術を学習し、その技術を伝授する側にもいます。私に技術者が理想を求めるといふ暴走を止める力はありませんが、真っ先に現場の声として、悲鳴をあげる教育者になれると願いたいのです。